

## 募集 コガタノゲンゴロウの生息情報を集めています！



### コガタノゲンゴロウとは？

全長約 25～30mm 前後。背面は黒色又は黒褐色で緑色光沢があり、前胸背板及び上翅側縁に黄褐色の縁取りがあります。外観がよく似ているゲンゴロウ(ナミゲンゴロウ)は腹部の色が異なることで見分けることができます。

- ・腹部 → 黒色 …… コガタノゲンゴロウ
  - ・腹部 → 黄褐色 …… ゲンゴロウ (ナミゲンゴロウ)
- 水田を中心とした止水域に生息します。幼虫は生きた昆虫等を食べ、成虫は魚、カエル等の新鮮な死骸を食べます。成虫は飛翔能力が高く、広範囲に分散できます。

**メモ** コガタノゲンゴロウは、1950年代には県下全域に生息していたと考えられていますが、生息環境が悪化し激減しました。絶滅の恐れが高まったことから、県の条例で特定希少野生動植物に指定されており、採集や販売等が禁止されています。

### コガタノゲンゴロウの特徴



### コガタノゲンゴロウと田んぼの関係



### 最新情報！

近年、愛媛県内全域でコガタノゲンゴロウ成虫の確認事例が増えています。2021年には従来から確認されていた南予地域に加えて、中予地域と東予地域においても幼虫が複数確認されています。(主任研究員 村上 裕)

愛媛県内でコガタノゲンゴロウを見つけたときは、**生物多様性センターにご連絡をお願いします！**  
連絡先 ▶ seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp

## お知らせ 募集中！「みんなで調べる愛媛の生きもの」



生物多様性センターでは「愛媛の生きもの調査隊」事業の一環として愛媛県内に生息する身近な生きもの分布状況を県民の皆様と一緒に調べる「みんなで調べる愛媛の生きもの」を実施しています。皆様の情報をお待ちしています！(主任研究員 村上 裕)

### 調べる生きもの

#### 水辺の身近な生きもの



アカハライモリ スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)



ニホンアマガエル アメリカザリガニ

その他、上級編としてヤマアカガエル、ニホンアカガエルの情報も募集中！

#### 特定希少野生動植物



コガタノゲンゴロウ ナゴヤダルマガエル

#### 特定外来生物



オオフサモ オオキンケイギク ウシガエル

### 調べ方と報告方法

- STEP1 調査場所を決めよう！
- STEP2 見つけた生きものを記録しよう！
- STEP3 見つけた生きものを報告しよう！

愛媛の生きもの調査隊への登録も、よろしくお願ひします！



生物多様性センター HP 「みんなで調べる愛媛の生きもの」

詳しくは、愛媛県生物多様性センターHPにアクセスして下さい。  
☆調査方法や、報告方法、調査マップのダウンロードができます。

## お知らせ 生物多様性センターが移転しました。

衛生環境研究所の移転にあわせて、生物多様性センターも松山市から東温市に移転しました。新しくなった庁舎では特定希少野生動植物を中心とした標本管理を新たに行うほか、今後は室内研修も実施予定です。



編集・発行

### 愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター

〒791-0211 愛媛県東温市見奈良 1545番地4  
TEL: 089-948-9678 FAX: 089-948-9677  
URL: <https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity>  
Mail: seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp

編集後記

2012年4月に生物多様性センターが開設されて10年が経過しました。これまで、特定希少野生動植物に関する調査・研究や生物多様性の普及啓発活動、カミツキガメ等の外来生物に対する対策等に取り組んできました。新庁舎においても、これまで以上に有益な情報を発信していきますので、皆さんからのご意見や情報をお寄せください。

# えがお 愛顔の生きもの 100年レター

愛媛県生物多様性  
ニュースレター

vol. 11

(令和4年7月)

## 岩場に咲くチョウジガマズミ

「ガマズミ」と聞けば、アジサイのような形の花、赤い実、或いは「トキワガマズミ」(ティナス)の青い実を思い浮かべる人もいるでしょう。レンブクソウ科ガマズミ属の樹木は、このような花や実が特徴的で庭木として植栽するほか、生け花やフラワーアレンジメントに使うことも多いようです。

チョウジガマズミ(環境省:準絶滅危惧種、愛媛県:絶滅危惧ⅠB類)は、南予海岸域の岩場に自生する樹高3m程度の低木樹で、4月上～中旬に開花する先端

が赤い蕾と薄紅色を帯びた白い花が特徴的です。園芸種のガマズミと比べ、1房の花数は少なめですが、バラのような芳香があります。核果は園芸種と比べて細く、房状にならないので見劣りするかもしれません。

本種は自生地が限られており、園芸的な価値から採取による個体数の減少と、土砂崩れ等による生育環境の悪化が懸念されることから、県条例において特定希少野生動植物に指定され、採取等が原則として禁止されています。(主任研究員 成松 克史)



チョウジガマズミ 環境省:準絶滅危惧種、愛媛県:絶滅危惧ⅠB類、県特定希少野生動植物 蕾期(左)と、開花期(右)

<参考文献>

愛媛県. 2014. 愛媛県レッドデータブック2014-愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物- / 愛媛県. 2018. 特定希少野生動植物保護管理事業計画「チョウジガマズミ」

## CONTENTS

- 【アルバム】自然観察会や現地学習会を開催しました。
- 【紹介】生物多様性保全・再生モデル地区推進事業について
- 【調査】重要生態系等自然環境調査について
- 【特定外来生物】東予地域を中心にセアカゴケグモが確認されています。
- 【お知らせ】生物季節観測始めます！
- 【特定希少野生動植物】カジカ中卵型 — 学名のお話 —
- 【募集】コガタノゲンゴロウの生息情報を集めています！
- 【お知らせ】募集中！「みんなで調べる愛媛の生きもの」
- 【お知らせ】生物多様性センターが移転しました。

## アルバム 自然観察会や現地学習会を開催しました。

生物多様性センターでは、条例で指定した特定希少野生動物や、近年問題となっている特定外来生物などを深く学ぶことを目的に自然観察会や現地学習会を開催しています。また、依頼に応じて各種講習会の講師対応も行いました。

(主任研究員 村上 裕)



自然観察会・現地学習会の様子

### 令和3年度に開催した主な自然観察会

月日	場所	内容	参加人数
7月4日	伊予市	水田の生きもの勉強会	36名
7月21日	西条市	カジカ中卵型の生息環境について	13名
11月4日	愛南町	ドロアワモチの生息環境と生息状況について	12名
11月12日	新居浜市	セアカゴケグモの生息環境について	25名
11月22日	四国中央市	四国のカモシカの生息状況について	16名
12月1日	西条市	マツカサガイの生息環境について	24名

(委託先：NPO 法人西条自然学校)

### 令和4年度の自然観察会について

令和4年度の自然観察会は、NPO 法人西条自然学校に委託して実施します。開催時期や内容についてはHPで案内予定です。

## 紹介 生物多様性保全・再生モデル地区推進事業について

### 生きものとの共生に取り組む～東温市奥松瀬川地区～

奥松瀬川創生会議(会長：森 東洋司)は、令和2年度から生物多様性保全・再生モデル地区推進事業に取り組んでいます。これまでに地域の寺社内の植物や陸産貝類、本谷川の上流～源流域や稔山の植物、神社や炭窯跡の歴史資源、水田を中心とした里山地域の生物等の調査を行い、併せて現地勉強会も実施しました。

今年度は、奥松瀬川の自然と人の関わりや歴史を再発見し、地域住民に伝えることを目的に「奥松瀬川生き物マップ」の作成を計画しています。

(主任研究員 成松 克史)



## 調査 重要生態系等自然環境調査について

多様な生物が生息する県内の自然公園のうち、特に気候変動の影響を受けやすい高標高地や、津波や海面上昇等の影響により消失する可能性がある地域等の動植物の生息状況について集中的に調査を実施し、生物相を明らかにします。また、調査結果を基にした気候変動影響の評価分析を行い、気候変動によって分布域、生息数が変化する可能性がある種の保全や将来的な回復のための基礎資料としています。

(主任研究員 村上 裕)

令和2年度対象地域… 篠山県立自然公園および宇和海沿岸  
 令和3年度対象地域… 金砂湖県立自然公園および宇和海沿岸北部  
 令和4年度対象地域… 佐田岬半島宇和海県立自然公園および宇和海島嶼部

50年以上確認できなかった種が再発見されました!!



**ハマスズ** *Dianemobius csikii* (Bolivar)  
 体長♂6.7mm、♀7.4mmの小形のゴオロギ類。県内では1950年代の採集記録以降、まったく確認されておらず、すでに絶滅したものと考えられていましたが、重要生態系等自然環境調査の一環で生息が確認されました。

調査結果の概要は生物多様性センターHPに掲載しています。

## 特定外来生物 東予地域を中心にセアカゴケグモが確認されています。

セアカゴケグモは2014年に愛南町で確認されて以降、県下全域で散発的に確認されています。しかし、2019年8月、新居浜市において県下最大規模の個体数が同一地点で確認されて以降、2021年には発生地点に隣接した工場敷地内で複数の個体が確認されるなど、近年は東予地域を中心に確認事例が増えています(図1)。

2021年11月に今治市市営球場でセアカゴケグモ成体と卵嚢が複数確認されたことを受けて、同施設内の点検や、市関係者を対象とした研修会を支援しました。同時に、今治市が中心となって同市が管理する全公共施設での確認作業を実施した結果、今治駅駐輪場で1頭のメスが確認されましたが、2022年6月時点で公共施設内での新たな発生は確認されていません。

(主任研究員 村上 裕)

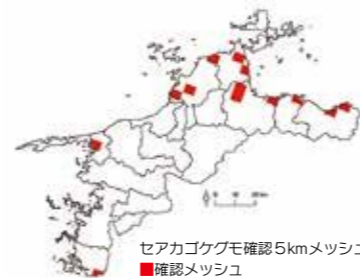


図1 県内のセアカゴケグモ確認状況



施設点検(2021年 今治市)



セアカゴケグモ(♀)と卵嚢

セアカゴケグモを見つけた場合は、最寄りの市役所・町役場の外来生物担当窓口または、生物多様性センターにお知らせください。

## お知らせ 生物季節観測始めます!

気象庁は、1953年から2020年まで、34種以上の植物、23種以上の動物について、開花日や動物の初鳴き日などを記録する「生物季節観測」を全国規模で継続して実施してきましたが、2021年より、対象種が大幅に縮小されることとなりました。70年近くにわたる様々な分類群の生物季節データは、気候変動をはじめ様々な環境変化が動植物に与える影響を評価できる基礎データであり、自然の仕組みや人間活動の影響を理解するために非常に貴重なものです。

そこで、気象庁・環境省・国立環境研究所の共同により、これまでの生物季節観測を可能な限り継続しつつ現代的な形を検討することとなり、愛媛県も気候変動適応センターと生物多様性センターが主体となって情報収集を行う予定です。

(主任研究員 村上 裕)

### 調査予定の項目

ツバキの開花日、ヒガンバナの開花日、モズの初鳴日、ヒバリの初鳴日、ウグイスの初鳴日、ツバメの初見日、シオカラトンボの初見日、アブラゼミの初鳴日、ヒグラシの初鳴日、モンシロチョウの初見日、キアゲハの初見日、ゲンジボタルの初見日

## カジカ中卵型 *Cottis* sp. — 学名のお話 —



カジカ中卵型 *Cottis* sp. は、生育段階で川と海を使い分けて生活を送る魚です。日本の河川に生息するカジカと呼ばれる魚は、卵の大きさや生態から3つのタイプに分けられています。いずれのカジカも体型は上から見ると頭でっかちでオタマジャクシを彷彿とさせます。

愛媛県では東予の河川でしか見ることができない貴重な魚で、県条例において特定希少野生動物に指定されています。

ところで本種の学名、*Cottis* sp. とはカジカ属 *Cottis* の一種という意味になります。つまり、カジカ中卵型にはまだ欠けるべき学名がわかっていないというのが現状です。よく知られている生き物でも、どの学名が正しいか明らかになっていない種もあります。

写真の標本は当センターが保護管理事業の一環で主催した現地研修会で採集した個体です。生息地では流れのある瀬の石の下に潜っていました。

(研究員 黒田 啓太)



© 愛媛県生物多様性センター